

＜発表者＞ 指導区名：鹿児島指導区 氏名：村岡 英樹

1 発表テーマ

持続可能な森林管理の取り組みについて

(自治会林研グループによる新たな森林管理の取り組み)

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

管内の人工林資源の大半は主伐期を迎えつつあり、木材輸出の増加等により人工林伐採面積は増加傾向にあるが、長期的な木材価格の低迷等により森林所有者の経営意欲は低下しており、それに伴い、無秩序な伐採や主伐後に再造林されない森林が一部見られる。健全な森林の育成と持続的な森林経営を進める上で、再造林は欠かせないものである。

このため、適正な伐採と再造林の推進について関係者と連携し取り組むこととした。また、昨年度から森林経営管理制度が導入されたところであるが、その対象とならない生産森林組合については、新たな森林管理の方策が急務となっており、生産森林組合における森林管理（経営）対策に取り組むこととした。

3 現状及びこれまでの取り組みの成果・課題

(1) 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

① 再造林推進対策

ア 個別による現場指導

伐採届けのあった0.5ha以上の人工林伐採予定地について、関係市と連携し、伐採指導並びに再造林の推進を実施

イ 伐採届けの厳格化

森林所有者、伐採者、届出者や遵守事項に関する誓約の記載を義務化

② 生産森林組合の森林管理（経営）対策

ア 管内の生産森林組合の現状把握（アンケート調査による意向確認）

今後、経営・維持が困難な状況で解散の意向を確認

★生産森林組合の解散状況（県庁 環境林務課 森林組合係資料）

(令和2年3月31日現在)		
県域 設立総数	解散	現在
65	37	28

近年解散組合の財産処分方法	H22	H27	H28	H29	H30	R1
認可地縁団体等への寄付	3	1	1	4	1	1
第三者へ売却				1	1	2

(裏面有)

② 生産森林組合の森林管理対策（続き）

イ 地域で持続的に森林を管理する仕組みづくり

嶽生産森林組合をモデルに取り組みを実施

生産森林組合の受け皿の確保（地縁団体：財産贈与）

森林管理活動に特化した林業研究グループの設立

林研グループと事業体が連携し主伐予定地の植付・下刈作業を計画

（労務提供）

（２） 課題

ア 林研グループ会員への植付・下刈作業の知識及び技術習得

イ 地域を元気にするには

森林管理活動以外に地域が更につながる方法

4 今後取組むべき内容

（１） 具体的手法又は検討方向

ア 植付・下刈作業に対する安全作業

刈払機の安全衛生特別教育の講習受講

植え付け作業の技術習得（研修会）

団体障害保険への加入

イ 地域を元気にする取り組み活動

計画的な森林管理を継続

流域の小学校と連携し教育活動の場として活用

侵入竹林の整備

森林環境譲与税の活用

（２） 理由

ア 植付・下刈作業に対する安全作業及び保険加入

作業による怪我のリスクを軽減し万が一の補償に備える

イ 地域を元気にする取り組み活動

山に愛着のある地域と子供達との関わりを持つことにより、地域林研グループ会員のやりがいのある活動となり得る。また、会員で知恵を出し合い地域や林業を活性化する仕組みを検討し、森林環境譲与税の活用方法を市へ要望する（夢は林業版“やねだん”）

（３） 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

地域の森林を持続的に管理することにより山への関心が高まり、地域が元気になることを期待